

令和8年度 学校経営計画書

学校番号	34	学校名	静岡県立静岡高等学校	校長名	織田 敦
------	----	-----	------------	-----	------

1 スクール・ミッション

本県における高校教育のフロントランナーとして、校訓「印高」の精神の下、主体的に勉学に励み、何事にも探究心をもって課題解決を図る学習を通して、将来、国内外の様々な分野で活躍するグローバルリーダーの育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) 校訓

印高（高きを仰ぐ）

(2) 実践目標

われわれは勉強を本分とする。

われわれは人に迷惑をかけない。

われわれは自主的に行動する。

(3) スクール・ポリシー

ア グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

①高い志をもって広く社会に貢献しようとする気概に溢れた人

②幅広い教養を備えて物事を多角的総合的に判断できる人

③主体的に学び、常に自己の知的な枠組みを刷新できる人

イ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

①世界に目を向ける気構えと、周囲への感謝を忘れない謙虚さを併せ持つ人間性を育む。

②知的好奇心をもって自然や社会の諸現象を理解しようとする知性を育む。

③自己の考えを発信する力と、他者の考えを尊重し調整する力を併せ持つリーダーシップを育む。

ウ アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

①好奇心が旺盛で学んだことを高いレベルで活用できる者

②3年間自分自身を成長させ続ける意思がある者

③多様な価値観を認め、豊かな人間関係をつくることのできる者

(4) スクール・ポリシー具現化の柱

ア 基本的な生活習慣を確立するよう具体的な働きかけを行い、授業・部活動・家庭学習に主体的に取り組む生徒を育成する。

イ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心や探究心を喚起する。

ウ 進路意識の高揚及び高い進路目標の達成を目指し、きめ細かな進路指導を推進する。

エ 生きる力や豊かな感性を培うため、部活動・特別活動等の充実に努めるとともに、社会に貢献しようとする姿勢を育成する。

オ 校内外のプログラムや外部人材の活用、探究活動を通して、主体性や探究心、グローバルな視野、リーダーシップの育成等に努める。

カ 心豊かな人生の実現に資する読書環境の整備に努め、図書館利用の推進を図る。

キ 生徒が心身ともに健康に過ごすことができ、生徒の成長・発達を支えることができる教育環境を整備する。

ク 高い資質・能力を備えた教職員集団であるべく、常に研究・修養に努める。

ケ 生徒・保護者及び県民から信頼される学校づくりに努めるとともに、学校の情報、魅力を積極的に発信する。

コ 「学校における働き方改革」に組織的に取り組む。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	基本的な生活習慣を確立 するよう具体的な働きかけを行い、 授業・部活動・家庭学習に主体的に取り組む生徒を育成 する。	<ul style="list-style-type: none"> ○初期指導及び日常的・継続的な指導の実施 ○適切な睡眠時間の確保、朝食の摂取など、規則正しい生活習慣の確立のために必要な事項の継続的な指導（HR指導、学年指導、保健だより等を通じて） ○スマホ等個人端末の校内での適切な使用の呼びかけ ○登校指導、交通安全指導等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○「規則正しい生活（適切な睡眠時間の確保、生活リズムの確立）をしている」と自己評価する生徒 80%以上 ○「朝食を食べている」と自己評価する生徒 90%以上 ○「静高では生徒指導（登校、交通安全、服装、頭髪など）が適切に行われている」と評価する生徒 80%以上 	生徒課 保健厚生課 各学年
イ	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心や探究心を喚起 する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した授業実践 ○理解を深めるために、対話や振り返りの機会を充実 ○教員相互による授業参観 ○生徒による授業アンケート ○「高校生のための学びの基礎診断」測定ツール（※）の活用による的確な学力把握と指導の改善 ○学習指導要領に基づくシラバス作成及び実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業の内容がよくわかる」と評価する生徒 80%以上 ○「知的好奇心を喚起する授業が行われている」と評価する生徒 80%以上 ○測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組む教員 90%以上 ○シラバスに沿った授業の実施 	教務課 研修企画課 情報処理課 各教科
ウ	進路意識の高揚及び高い進路目標の達成を目指し、きめ細かな進路指導を推進 する。	<ul style="list-style-type: none"> ○進路講演会、大学訪問等の進路行事の実施 ○「キャリア・デザイン・ツアー」による印高の精神の涵養 ○進路だより等を通じた定期的な進路情報の提供と意識付け 	<ul style="list-style-type: none"> ○「進路指導が適切に行われている」と評価する生徒 90%以上 ○「知的好奇心を喚起する事業が行われている」と評価する生徒 90%以上 ○入らなければならない大学を見つけた生徒 3年生 80%以上 	進路課 総務課
エ	生きる力や豊かな感性を培うため、部活動、特別活動等の充実に努めるとともに、社会に貢献しようとする姿勢を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会行事、学校行事の内容の充実 ○生徒主体の部活動の推進 ○部活動等を通じた社会貢献活動の実施（各部で奉仕活動、施設等訪問、清掃など、活動機会を年1回は設ける。） ○平日頃からの挨拶の励行 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動、特別活動等に積極的に取り組んでいる生徒 80%以上 ○社会貢献活動を実施した部活動等 80%以上 ○「挨拶ができています」と自己評価する生徒 80%以上 	生徒課 各部顧問
オ	校内外のプログラムや外部人材の活用、探究活動を通して、主体性や探究心、グローバルな視野、リーダーシップの育成等に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○国、県の事業を中心とする各種プログラムの積極的な活用 ○各方面の専門人材による講演等の企画・実施 ○「総合的な探究の時間」における探究活動の充実 ○「総合的な探究の時間」で 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種プログラム参加者の増加と意識の向上 ○各種講演等への参加生徒の増加と意識の向上 ○「充実した探究活動が行われている」と評価する生徒 80%以上 ○探究活動に関わる外部人材 	研修企画課 進路課

様式第1号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
		の探究活動における外部人材の活用 ○「グローバル・スタディーズ・プログラム」の実施	の人数 のべ100人以上 ○「グローバル・スタディーズ・プログラム」への参加生徒の満足度90%以上	
カ	心豊かな人生の実現に資する読書環境の整備に努め、図書館利用の推進を図る。	○読書週間の実施 ○LHRでの読書会の実施 ○図書館ボランティアを募り、放課後・週休日に図書館を開放	○朝の読書週間 年2回 ○LHRでの読書会 年1回 ○図書館開放日 年間300日以上	図書課
キ	生徒が心身ともに健康に過ごすことができ、生徒の成長・発達を支えることができる教育環境を整備する。	○朝の健康観察 ○不安や悩みを抱える生徒の支援（スクールカウンセラーの活用） ○欠席が続く生徒への早めの声掛け、保護者、教職員間の情報共有 ○日常の清掃活動 ○施設設備の定期的な安全点検と必要な修繕等 ○施設設備の充実	○健康観察を通しての情報共有 ○校内情報交換会 学期1回以上 ○「健康・安全指導が適切に行われている」と評価する生徒 80%以上 ○「学校に悩みなどを相談できる人がいる」と評価する生徒 90%以上 ○安全点検 学期1回 ○「施設・設備・環境の整備が適切に行われている」と評価する生徒 80%以上	教育相談室 保健厚生課 事務室
ク	高い資質・能力を備えた教職員集団であるべく、常に研究・修養に努める。	○自己の資質向上のために教員各自が設定する研修の実施 ○センター定期訪問を活用した全体研修の実施 ○授業参観週間の実施 ○職員会議、打合せ等の時間を使用した不祥事根絶研修の実施	○教員各自が設定した研修の実施 100% ○センター定期訪問により授業改善の意識が高まった教員 90%以上 ○授業参観週間 年2回 ○不祥事根絶研修の実施 毎月	研修企画課 管理職 全員
ケ	生徒・保護者及び県民から信頼される学校づくりに努めるとともに、学校の情報、魅力を積極的に発信する。	○土曜オープンスクールの実施及び中学生・保護者への公開 ○ホームページによる広報、情報発信の充実 ○適切な会計処理の実施 ○適切な勤務サービス管理の実施	○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ1,500人以上 ○ホームページ更新 週3回以上 ○不適切な会計処理 0件 ○会計及び勤務サービスに関する職員研修の実施 年1回以上	総務課 管理職 事務室
コ	「学校における働き方改革」に組織的に取り組む。	○部活動の効率化、外部人材の活用 ○年間行事予定の見直し ○ICTの効果的な活用 ○職員安全衛生委員会の実施 ○在校等時間の適切な管理と時間外勤務の多い職員への面談実施 ○職員の健康状態、時間外勤	○部活動の正副顧問の役割分担が明確になる。 ○部活動における外部人材の活用 10人以上 ○働きやすい年間行事予定の作成 ○ICTの活用により業務改善が図られる。 ○旅費デジタル入力 of 定着	管理職 全員

様式第1号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
		務の状況により、健康管理 医との面談を実施	<ul style="list-style-type: none"> ○職員安全衛生委員会の実施 毎月 ○時間外勤務が月 45 時間を 超える職員 15%未満 ○時間外勤務が月 80 時間を 超える職員への管理職面談 の実施 ○必要な職員について健康管 理医との面談を実施 	

※「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツール：本校においては「学力テスト」